

くすりのしおり

622003001

2010年9月作成

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。このために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

商品名：パキシル錠 5mg

主成分：パロキセチン塩酸塩水和物（Paroxetine hydrochloride hydrate）

剤形：帯紅白色の錠剤、直径 5.6mm、厚さ 2.4mm

シート記載：Paxil 5mg、GS TEZ、パキシル 5mg、GlaxoSmithKline



この薬の作用と効果について

脳内の伝達物質（セロトニン）に作用し、抗うつ作用や抗不安作用を示し、憂うつな気持ち、不安、いらら感、やる気がなくなる、食欲不振、不眠、突然激しい不安、強迫観念、人前での過度な不安や緊張などの症状を改善します。

通常、うつ病・うつ状態、パニック障害、強迫性障害、社会不安障害の治療に用いられます。

次のような方は使う前に必ず担当の医師と薬剤師に伝えてください。

- ・ 以前に薬を使用して、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。躁うつ病、自殺念慮または自殺企図の既往、自殺念慮、脳の器質的障害または統合失調症の素因、衝動性が高い併存障害、てんかんの既往歴、緑内障、出血傾向または出血性素因がある。
- ・ 妊娠または授乳中
- ・ 他に薬を使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、大衆薬も含めて他に使用中の医薬品に注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

- ・ **あなたの用法・用量は** << >> : 医療担当者記入
- ・ **うつ病・うつ状態**：通常、成人はパロキセチンとして 1 回 20～40mg を 1 日 1 回夕食後に服用します。1 回 10～20mg から服用を始め、原則として 1 週ごとに 10mg/日ずつ増量されますが、症状により 1 日 40mg を超えない範囲で適宜増減されます。
パニック障害：通常、成人はパロキセチンとして 1 回 30mg を 1 日 1 回夕食後に服用します。1 回 10mg から服用を始め、原則として 1 週ごとに 10mg/日ずつ増量されますが、症状により 1 日 30mg を超えない範囲で適宜増減されます。
強迫性障害：通常、成人はパロキセチンとして 1 回 40mg を 1 日 1 回夕食後に服用します。1 回 20mg から服用を始め、原則として 1 週ごとに 10mg/日ずつ増量されますが、症状により 1 日 50mg を超えない範囲で適宜増減されます。
社会不安障害：通常、成人はパロキセチンとして 1 回 20mg を 1 日 1 回夕食後に服用します。1 回 10mg から服用を始め、原則として 1 週ごとに 10mg/日ずつ増量されますが、症状により 1 日 40mg を超えない範囲で適宜増減されます。
本剤は 1 錠中にパロキセチンとして 5mg を含有します。いずれの場合も、必ず指示された服用方法に従ってください。
- ・ 効果が現れるのに通常 2 週間前後かかります。効果が現れても服用を続ける必要があります。
- ・ 飲み忘れた場合は、気がついたときにできるだけ早く 1 回分を飲んでください。ただし、次の通常飲む時間が近いときは 1 回とばして、次の通常の服用時間に 1 回分を飲んでください。絶対に 2 回分を一度に飲んではいけません。
- ・ 誤って多く飲んだ場合は医師または薬剤師に相談してください。
- ・ 医師の指示なしに、自分の判断で飲むのを止めないでください。突然服用をやめたり、薬の量を減らすと、めまい、吐き気、発汗などで我慢できない症状が現れることがあるので、絶対に避けてください。

生活上の注意

- ・ 眠気、めまいなどが起こることがありますので、自動車の運転など危険を伴う機械を操作する時は十分注意してください。
- ・ アルコールは薬の作用を強めるおそれがありますので、服用中は飲酒を避けてください。
- ・ セイヨウオトギリソウ（セント・ジョーンズ・ワート）含有食品は薬の作用を強めるおそれがあるので、注意してください。

※次ページも必ずお読みください。

パキシル錠 5mg

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、吐き気、眠気、口渇、めまい、便秘、頭痛、食欲不振などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[] 内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・ 不安、興奮、手足の震え [セロトニン症候群]
- ・ 筋肉のこわばり、発汗、急激な発熱 [悪性症候群]
- ・ 考えがまとまらない、現実には存在しない物が見える、意識がうすれる [錯乱、幻覚、せん妄、痙攣]
- ・ 全身倦怠感、意識の低下、けいれん [抗利尿ホルモン不適合分泌症候群]
- ・ 全身倦怠感、食欲不振、皮膚や結膜が黄色くなる [肝機能障害]

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

保管方法その他

- ・ 乳幼児、小児の手の届かないところで、直射日光、高温、湿気を避けて保管してください。
- ・ 薬が残った場合、保管しないで廃棄してください。

医療担当者記入欄 年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、「患者向医薬品ガイド」、医療専門家向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。